NEWS 公益財団法人世界こども財団 FGC-Foundation for Global Children

デジェンさん、ペンジョさん 星槎大学ご卒業おめでとうございます!



それぞれの学位記を手に。デジェンさん(左)ペンジョさん(右)

世界こども財団と星槎グループではアフリカやアジアからのスポーツ奨学生を日本に招き、スポーツを通した青少 年の育成に取り組んできました。

アフリカのエリトリア国、アジアのブータン王国から来日したデジェン・テスファレム・ウェルドゥさんとツェリン・ ペンジョさんは、星槎国際高等学校で陸上競技と勉学に励み、卒業後は星槎大学アコモデーションコースに進学し活 動を続けてきました。

来日した当初は日本語もまったくわからず、言葉の壁に加えて文化の違いにも戸惑い、苦しい経験もたくさんした 二人。そんな中でも決して諦めることなく、前向きに努力を続けてきました。二人は大きく成長し、コミュニケーシ ョンも全て日本語でできるようになりました。陸上競技においても、それぞれが母国の代表として国際大会に出場す るまでになりました。そしてなにより、多くの人に支援され、愛された二人は、世界こども財団と星槎グループで故 宮澤保夫前理事長が願った「アフリカとアジアの架け橋」を象徴する存在となりました。

そのデジェンさん、ペンジョさんが、9月19日、晴れて大学の卒業を迎えました。

当日は二人がお世話になった先生方や陸上競技関係の方々がお祝いに駆けつけ、駐日エリトリア国大使エスティフ ァノス・アフォワキ閣下にもご出席いただきました。またブータンからも多くの関係者の方がオンラインで出席してく ださいました。

星槎大学の西村哲雄学長から学位記を授与された二人は、堂々と、これまで支援をしてくださったみなさまへの感 謝と、今後への決意を語ってくれました。



星槎大学 西村哲雄学長より学位記を授与



卒業生スピーチで感謝を伝えました



駐日エリトリア国大使エスティファノス・アフォワキ閣下(写真中央)と、 お世話になった大学の先生方と記念撮影

卒業後、デジェンさんは九州・熊本の企業の陸上競技部に所属し、ペ ンジョさんはブータン王国に帰国、引き続きアスリートしての更なる成長 と活躍を目指し、それぞれの次のステージへ向けて進み始めています。

これまで留学生としてのデジェンさん、ペンジョさんを応援し続けてく ださった皆様に、心より御礼申し上げます。二人の今後の活躍に、ぜひ ご期待ください。

たくさんの思い出を胸に…





高校入学











2019 年 星槎国際高校湘南を卒業、星槎大学へ進学 宮澤保夫前理事長(写真右)、エスティファノス大使(写真左)、 同期のエリトリア留学生アヌールさん(写真右から 2 番目)とともに

卒業の言葉 (卒業式スピーチより)

デジェン・テスファレム・ウェルドゥ

星槎大学、星槎グループ、FGC、そして応援してくださった皆さん、今までいろいろなことを経験させていただきありがとうございました。来日してから6年半が経ちました。皆さんに支えていただいたことは決して忘れません。皆さんのサポートがあったからこそ、私たちは日本で生活をすることができました。陸上競技や学習をすることができて、とても嬉しかったです。特に、宮澤保夫名誉会長(FGC前理事長)の思いやり、私たちに対する親切さに、改めて、心を込めて、感謝申し上げます。私がここまで来られたのは、宮澤会長と皆さんのおかげです。感謝を十分にお伝えすることができないまま、会長は亡くなってしまいました。私たちの卒業式の時に、会長が私たちの横にいらっしゃることが、私の夢でした。しかし、精神的に会長はここにいらっしゃると信じています。ありがとうございました。

ツェリン・ペンジョ

これまでの皆様のご支援とご声援に感謝するとともに、今後の 私の決意を説明するために皆様の前に立っております。

この5年半、たくさんの素晴らしい人々に出会い、多くのことを学ぶことができました。これからも常にさらなる努力を続けます。私に良い影響を与えてくれた人全員の名前を挙げることはできませんが、星槎グループ、FGC、高校と大学の先生、チューターの先生と陸上競技チームに心から感謝いたします。そして私に最高の機会を与えてくれたのが宮澤保夫名誉会長です。宮澤名誉会長のおかげで私は今いる場所に来ることができ、国際的に母国のブータンを代表することができました。

これからはブータンに戻り、星槎の「3つの約束」を大切に、 プロアスリートになるという夢を追い続けていきます。 私はどこへ 行っても、星槎を家族として忘れません。 ありがとうございました。

日フ田田

留学生 アルマムさんの 母国

マリ共和国の文化紹介~泥建築~

今年5月に来日したスポーツ奨学生、アルマムさんは日本での初めての夏休みを経て、後期もバスケットボールと勉強に励んでいます。日本語はひらがな・カタカナも全てマスターし、いよいよ漢字の学習に入りました。そしてバスケットボールでも試合で徐々に頭角を現し、アルマムさんの活躍で格上のチームに勝利することも増えてきました。

アルマムさんの母国であるマリ共和国の文化について お届けします。第一回目は、マリの泥建築についてご紹 介します。

マリは、秀逸な音楽、舞踊、絵画、民芸品などの豊かな文化を持つ国で、その背景には深い歴史があります。かつては「黄金の王国」と呼ばれ、現在も世界遺産として登録されている場所が4カ所存在します。そのひとつが、紀元前から続く歴史を持つ「ジェンネ旧市街」です。ジェンネは、西アフリカを流れる大河ニジェール川の中州地帯に位置し、13世紀末にはサハラ砂漠を横断する金の中継地として繁栄しました。

ジェンネ旧市街に特徴的なのは、伝統的な泥で造られた建造物です。泥で造られた巨大なモスクや家屋などの建物は、壁には「テロン」と呼ばれる木の断片が組み込まれています。建築物の正面には、父、母、子といった家族の様々な構成員が表現され、点の数は子どもの人数を表しています。

次回はマリの音楽についてご紹介します。お楽しみに!



アルマムさん



マリ共和国の泥建築ジェンネの大モスク



ブータン王国 卒業生はじめ続々と国際大会に出場

9月19日に星槎大学を卒業したペンジョさんは、一息つく間もなく、9月25日に中国の杭州に旅立ちました。 ブータン王国代表としてアジア競技大会に出場するためです。そして、今回は、ペンジョさんはじめ、星槎の卒業生4名が、ブータン王国代表としてアジア競技大会に出場しました。続々と国際大会に出場し、成長を続けるブータンスポーツの「今」をお伝えします。

アジア競技大会 卒業生 4 名がブータン王国代表に

アジア版オリンピックとされる第 19 回アジア競技大会は 9 月 23 日~ 10 月 8 日中国・杭州にて開催されました。ブータン王国は、史上最大 28 名の選手団を派遣、その中で、星槎国際高校湘南の卒業生ソナム・チョデンさんがリカーブ・アーチェリー代表として、星槎道都大学卒業生のタンディン・ワンチュクさんが柔道 73 キロ級代表として、キンレイ・ツェリンさんが柔道 66 キロ級代表として、そして星槎大学卒業生のツェリン・ペンジョさんは陸上短距離 200m、400m の代表として、試合に臨みました。

アジア競技大会に引き続き開催されるアジアパラ競技大会にも、ブータン選手団が参加しました。東京パラリンピック大会でブータン史上初のパラリンピック出場を果たし、星槎箱根キャンパスで事前キャンプを行ったチミ・デマ選手(女子砲丸投げ)、ペマ ・リグゼル選手(男子アーチェリー)を含む4選手が出場しました。









アジア競技大会に出場した卒業生たち ソナムさん(左上)、タンディンさん(右上)、キンレイさん(左下)、ペンジョさん(右下)

世界水泳選手権 2023 福岡大会 ブータン代表選手が来日

アジア競技大会に先立ち、7月14日から30日にかけて開催された世界水泳選手権2023福岡大会にも、ブータン王国から代表選手が出場しました。世界水泳選手権は水泳競技において夏季オリンピックに次ぐ重要な大会とされ、日本での開催は同じく福岡での2001年大会以来22年ぶり2回目となりました。

本大会に来日したブータン代表選手は2名。東京オリンピックにも出場したサンゲイ・テンジン選手は200m自由形と100m自由形、もうひとりの代表キンレイ・レンドゥプ選手は、200m個人メドレーと100mバタフライにそれぞれ出場しました。サンゲイ選手は、100m自由形で自己ベスト2番目を記録し、200m自由形でも自己ベストを更新しました。一方のキンレイ選手は、今大会が初の来日。200m個人メドレーの自己ベストを大きく更新し、バタフライ100mでも自己ベスト2番目を記録しました。同大会にはブータンオリンピック委員会(BOC)のソナム事務局長も来日し、今後のブータンと世界こども財団、星槎グループの協働に向けたミーティングを行いました。



(左から) アレックスコーチ、キンレイ選手、サンゲイ選手、 BOC ソナム事務局長

世界の壁はまだまだ厚いですが、選手たちは持てる力を最大限に発揮し、ブータンのスポーツは確実に国際大会での活躍の場を広げています。世界こども財団では今後も、星槎の卒業生たち、そして次世代を担うブータンのアスリートたちを応援していきます。

